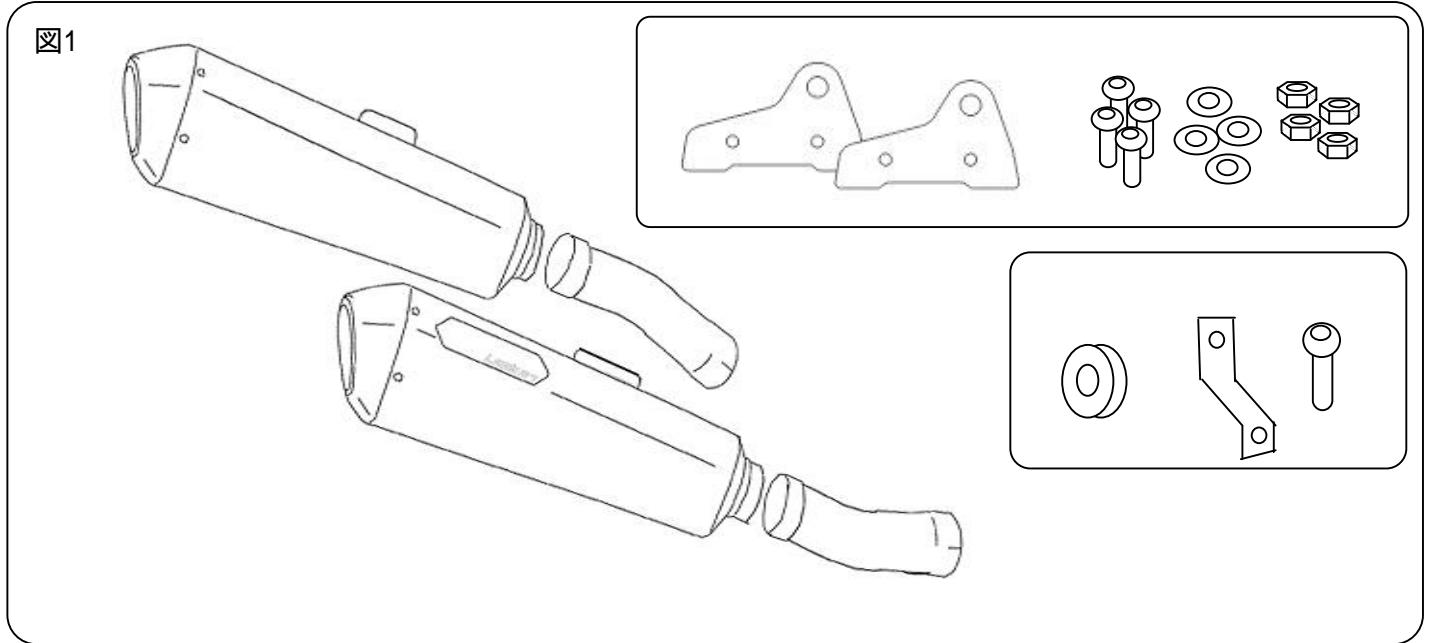


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。
このマフラーは、Z1000 10- (ZRT00D)及びNinja1000/ABS 11- (ZXT00G/H)用となっております。その他の機種(車両型式・年式)には取り付けられません(車検を受けられません)のでご注意ください。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



純正サイレンサーの取り外し

右アンダーカウル及び左右の純正サイレンサーを取り外します。(マフラー・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従ってください。)取り外しの際の純正ボルト・ナット類はロックオンマフラーを取り付けるときに使用しますので無くさない様ご注意ください。

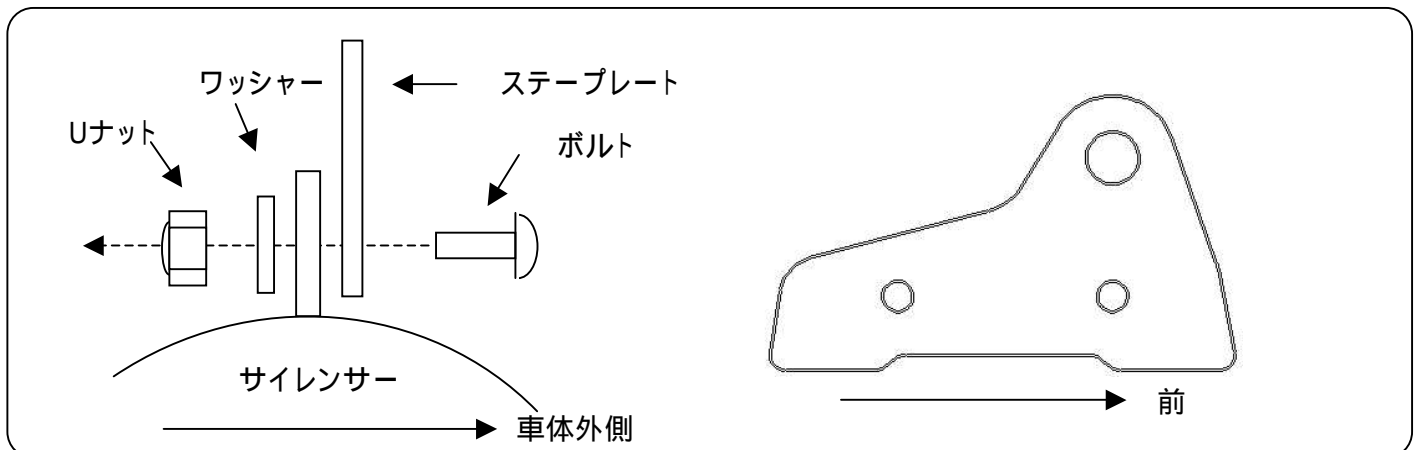
排気バルブのコントロールケーブルはマフラーと一緒に取り外します。コントロールケーブル取り外しの際、車体側のプーリーを動かさない様、注意して作業して下さい。

サイレンサーステープレートの取り付け

サイレンサーR/Lにステープレートを取り付けます。最終的に車体に取り付けた後に微調整を行う必要がある為、ここでは仮組みです。

パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
	テールパイプR	1
	テールパイプL	1
	サイレンサーR	1
	サイレンサーL	1
	スプリング(首振り)	4
	ステープレート	2
	ボルト M6-12 ボタンキャップ	4
	ワッシャー M6	4
	Uナット M6	4
	カラー	1
	アンダーカウルステー	1
	ボルト M6-20	1



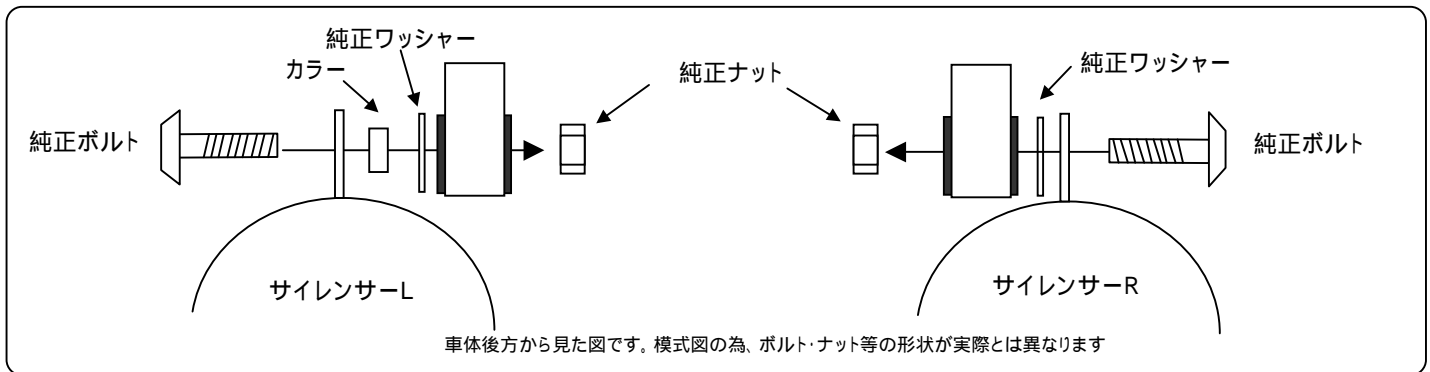
ロックオンマフラーの取り付け

テールパイプに純正のクランプバンドを掛けて、純正マフラーと同じ位置に差し込み仮留めします。(差し込み部ガスケットは脱着毎の交換を推奨)。続いてサイレンサーをテールパイプに差し込み、純正のボルトナット及び カラーを用いて仮留めし、スプリングを掛けます。

マフラー各部に無理な力が掛かっていないこと、車体各部との干渉がない事を確認し、必要があれば調整を行いながら仮留めしたボルトナットを本締めします。締め込み具合により車体とのクリアランスが変化するため、注意しながら作業を行って下さい。最後に純正のクランプバンドで差し込み部を本締めします。

サイレンサーステープレートの本締めを忘れない様、ご注意ください。

サイドスタンドを動かしてみてテールパイプと干渉の無い事を必ずご確認ください。



アンダーカウルの取付け

カウルステーをフレームと排気バルブのケーブルガイドのナットの間に ボルトを用いて共締めする形で仮留めします。次に右アンダーカウルを カウルステーのネジ山の切った側にある側の穴に純正ボルトを用いて仮留めします。最後に位置をあわせながらそれぞれ本締めして下さい。

最終確認

以上で作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。



手の脂等が残ったまま熱が加わると、焼けムラの原因になります。事前に十分脱脂を行って下さい。サイレンサー表面はケミカル類やコンパウンド等で磨かないで下さい。磨き跡が残る場合があります。

セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態で性能を発揮するよう設計されておりますので、基本的にセッティングは不要です。(突き詰めてセッティングを行う事でより良い結果を得られる場合はございます)

グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブリさせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発 排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)

グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。

走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気を付け下さい。

シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。

本製品は純正触媒の残る仕様の為、排気ガス検査成績書は付属しておりません。車検など、純正触媒の位置の確認が必要な際は同梱の純正触媒使用確認書を提示下さい。

転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。

その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

サイレンサー内のグラスウールは、ある程度の熱はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。新品を取り付けた直後に車検を受ける際などは、十分慣らしを行ってください。

NOJIMA ENGINEERING

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町7265-7 TEL:059-378-3505 FAX:059-370-7811

WEB: <http://www.nojima-japan.co.jp> MAIL: info@nojima-japan.co.jp

110704